



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3424 号 2016.12.27 発行

### ツイキュウ「少女たちに迫る危険...“デート援交”の実態」

カンテレワンダー 2016年12月22日

皆さんは、「デート援交」という言葉をご存知でしょうか？

女性が、見ず知らずの男性と食事や買い物といった「デートをする」ことでお金をもらうもので、いま、未成年の女子中高生たちを中心に広まっています。

しかしその一方で、少女たちが危ない目に遭うこともあり、問題となっています。

「デート援交」の実態をツイキュウしました。

【少女（10歳代）】「知り合いのおじさんに会って、お小遣い貰うみたいな感覚でやっています。だいたい、30代の方から50代の方もいらっしゃいます」

清楚でおとなしそうな印象を受ける10代の少女が語った、驚きの事実。

【少女（10歳代）】「“デート援”って書いています」  
彼女が日常的に行っているのは、“デート援交”と呼ばれるものです。

【村西キャスター】「“デート援交”って言葉を聞いたことはありますか？」

【少女（17歳）】「“デート援交”？なに、それ？」

【女性（22歳）】「ないです」

【少女（17歳）】「友達がやっています」

【女性（21歳）】「聞いたことがあります。よく（ツイッターの）リツイートとかで回ってきますね」

街で聞いてみると、どうやらツイッター上で、“デート援交”という言葉が飛び交っていることがわかりました。

そこで、ツイッターで『デート援交』と検索してみると...

【村西キャスター】「“デート援”もしくは“デート援交”だけで、かなりの数がヒットします。『1時間5000円、2時間1万円。デートにかかる費用は負担して頂きたいです』という書き込みもあります」

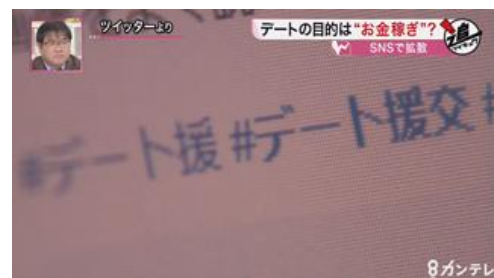
一体、“デート援交”とは、どのようなものなのか...？

取材班は、“デート援交”の経験がある、高校3年のレイナさん（仮名）から、話を聞くことが出来ました。

【記者】「始めようと思ったきっかけは？」

【“デート援交”の経験があるレイナさん（仮名・高校3年）】「友達がやっていたから。1時間5000円、30分2500円で、だいたいみんなプラスで交通費1000円って感じでもらっていて。安い子は3000円の子もいるし、4000円の子もいる」

【記者】「レイナさんはいくら？」



【レイナさん（仮名）】「私は1時間 5000円です。服買ってもらえたり、お金をもらった上で、ご飯食べさせてもらったりして、しかも空いた時間で出来るからいいと思った」  
“デート援交”とは、「デート」と「援助交際」を、合わせた造語です。  
従来の「援助交際」は男性が女性に金品を支払い性行為をする、れっきとした売春行為で、犯罪です。

しかし、取材をした少女などによると、“デート援交”は、性行為を伴わず、一緒に出掛けたり、食事をしたりする対価として、お金を受け取るといいます。

“デート援交”は、女性側がデートの料金、場所や時間などの条件を、ツイッター上に書き込みます。

それを見た男性が、女性にコンタクトを取って出会う...という形です。

援助してくれる男性を“お父さん”と表することから、“デート援交”は別名「パパ活」などとも呼ばれています。

【“デート援交”の経験があるレイナさん（仮名・高校3年）】「援助交際は体を売っても1万5000円～2万円が相場、高校生でも3万円と安い。“デート援交”はツイッターでツイートして、時間とか募集をかけたなら、すぐ会える人から連絡きたりとか、1～2時間遊ぶだけで済むから効率がいい」

レイナさんは性行為をせず、デートをするだけで、効率よくのお金を稼げるのが“魅力”だといいます。

非行少年や少女のカウンセリングを行う専門家は、「ツイッター」というツールと、「デートのみ」という形が、気軽に“デート援交”を始めしてしまう根底にあると指摘します。

【大阪心理教育センター・魚住絹代センター長】「好きなサイトで友達と繋がるのと、あまり変わらないような感覚で、入り口も敷居も低い感じがして、出会って、話をして、あるいはちょっとデートをして...というような認識。若い子が抵抗もリスクも少ないとってしてしまうことが畏になっている」

若い女性に聞いてみると...

【少女（17歳）】「やっぱり危ないというイメージがあるので、（初対面の人と）普通に遊んだりデートすると言うのは怖い」

【少女（17歳）】「知らない人とか1度も会ったことがない人と、いきなりデートは絶対無理」

【記者】「お金がもらえても？」

【少女（17歳）】「それなら普通の仕事をしている方がまし」

【記者】「一緒に出掛けるだけでも抵抗はある？」

【少女（17歳）】「相手によるかな」

【女性（21歳）】「人による」

抵抗があるという人が多数を占めるなか、デートだけなら...という意見も聞かれました。

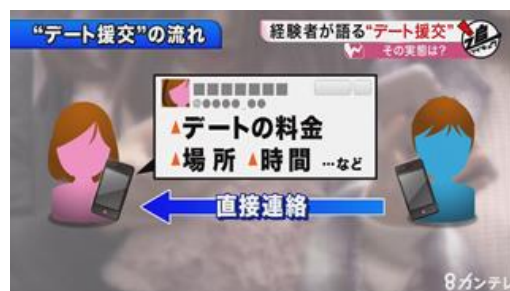
「割のいいアルバイト」と思って始めたレイナさん。

しかし、取材の1週間ほど前に、「デート援交」をやめたといいます。

その理由を聞いてみると...

【“デート援交”の経験があるレイナさん（仮名・高校3年）】「危ないなと思った。（デートが）終わった後に、家までつけてくる人がいたりとか、気持ち悪い人もいたので」

幸い、危害は加えられなかったものの、見ず知らずの男性とデートをすることは危険も伴



います。

さらに、それだけではありません。

【記者】「危ない目に遭ったことは？」

【“デート援交”の経験があるレイナさん(仮名)】「一度会って、すごくいい人だと思ったが、後からDM(ダイレクトメール=ツイッター上のメッセージk)が来て、“本番”(=性行為)とかできますか?』と。不潔な人は無理だから、会ってから決める。交渉次第」  
実際、ツイッター上の「デート援交」の書き込みを見てみると、性行為を示唆するような内容もあちこちにあります。

「デート援交」は、売春の温床になっているともいえそうです。

この現状を、取り締まることはできないのでしょうか?

【未成年の性犯罪被害などに詳しい・奥村徹弁護士】「日中に、中年男性と少女が歩いている。デートしている場面は取り締まることはできない」  
未成年の性犯罪被害などに詳しい奥村徹弁護士は、表向きが“デートのみ”の場合、少女が18歳未満でも、深夜に出歩くことなどを除いて、違法性はないといいます。

【奥村徹弁護士】「たくさんある書き込みの中で、性行為までいくのがどこまであるかわからないので、捜査するとなると、非常に無駄が多い捜査になる」

取材を進めると、自身を“高校2年生”と語る少女から、話を聞くことができました。

少女は、どこにでもいそうな普通の子で、清楚な印象です。

学校での成績も優秀だといいます。

【“デート援交”をする少女】「なぜやるかといえば、お金目的。2時間からで募集していて、2時間とか4時間とか、あるいは半日の人もいる」  
少女は、性行為などは一切せず、「デートのみ」としてはいますが、危険な目にも遭いました。

【“デート援交”をする少女】「約束通りの場所に、約束の通りの時間に行ったら、違う人がいたりとか、複数人いたりとか...それ以上は言えません」

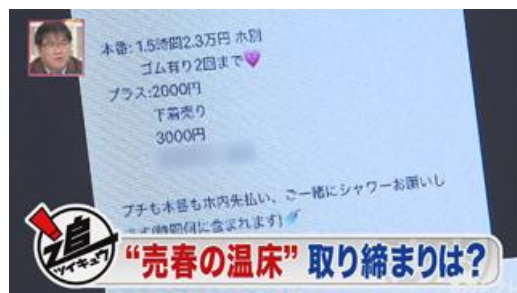
【記者】「警察には言いましたか？」

【“デート援交”をする少女】「言っていないです。(事実を)知った家族が、『仕事とかで忙しいのに、なんで問題おこすねん』って思ったりすると思う。自分では本当はダメな事だと分かっているんですけど...」

しかし、少女は今でも“デート援交”をやめられずにいます。

【記者】「続けている理由は？」

【“デート援交”をする少女】「お金の問題。お金を払ってくれるなら会いたいし、お金がなければ、会いたくない」



社説：まとめサイト ビジネスといえるのか

毎日新聞 2016年12月26日

IT大手ディー・エヌ・エー(DeNA)が運営する医療情報サイトが根拠の不明確な記事を書き、公開中止に追い込まれた。記事の正確さをないがしろにして、広告料稼ぎに走るようではビジネスといえない。

テーマごとに情報を集めるサイトは、「まとめサイト」と呼ばれる。近年、急成長したインターネット上のメディアである。だが、他社にも同じような問題が見つかり、非公開の

動きが広がっている。

公開中止のきっかけになったこのサイトは、DeNAが運営する医療系サイト「WELQ（ウェルク）」だ。2015年10月に開設された。

外部筆者らに記事を募り、まとめ情報を無料で提供する。そして閲覧率をあげることで広告収入を増やす仕組みだった。月間の利用者は延べ約2000万人にのぼったという。

ウェルクでは、医師のブログを勝手に変え、それを読んだ日焼け患者がタオルを患部に直接あて、症状を悪化させた例があった。

特定の化粧品などの効果を保証して、販売のページに移動できるような不適切な表示も見られた。東京都は、医薬品医療機器法（旧薬事法）違反にあたる疑いがあるとして記事作成の経緯などを調べている。

また同社は、責任を負う編集部の機能が明確には存在しないことや、外部筆者が他人の記事を書き換える際、文言が同じにならないようにマニュアルで指示していたことを認めた。記事に多くのキーワードを盛り込むことで、検索結果の上位にくるように細工もしていた。

同社の他サイトでは、外部筆者が1文字0・5円の低単価で受注していた。まともな収入を得るには量をこなすことが必要で、他人の記事を書き換えるしかなかったという。

引用は本来出典を明記し、正当な範囲で行わなければならない。いずれも安易な運営であり、大がかりな著作権侵害になる可能性がある。

正確な記事を作るには、労を惜しまずに取材することが求められる。しかし、ウェルクはその手間ひまをかけず、書き換えが前提と受け取れるようなやり方で、記事を量産していた。情報の中身を問わず、収益を最優先するビジネスは成り立たない。

まとめサイトは、膨大な情報の中から役立つものを探するために生まれたものである。同社は「成長を求めすぎて、正しい情報提供への配慮を欠いた」と陳謝した。

ネットには、参加者全員が情報を共有し、見知らぬ者同士を結びつける力がある。一方で情報は玉石混交だ。広く情報を扱うネットメディア全体の自覚を求めるとともに、利用する側が情報の質を見極められる教育を進めなければならない。

## ウィッツ青山、来年4月から神村学園に

産経新聞 2016年12月26日

三重県伊賀市の「ウィッツ青山学園高」の広域通信制で不適切な指導が行われていた問題で、同市の岡本栄市長は26日、文部科学省を訪れ、同高の運営が来年4月以降、現在の株式会社ウィッツから鹿児島県いちき串木野市の学校法人神村学園に交代することを義家弘介副大臣に報告した。校名は神村学園高等部伊賀分校となり、ウィッツ青山の在校生を受け入れる。

同高は、国から教育特区の認定を受けた伊賀市が設置を認可。市は同高を継続させるため、申し出のあった7者から、高校教育の実績などを基に神村学園を選定した。市は来年4月1日付で特区認定を返上する。

岡本市長は報告後、「市の責任が問われる事案。保護者や生徒の不安のないようにみていかなければならない」と述べ、卒業認定に必要な単位が不足していた同高生徒の補習費用約600万～700万円を株式会社ウィッツに請求する考えを示した。

## あったかクリスマス ホームレスと市民交流

大阪日日新聞 2016年12月26日

ホームレスの人たちと市民が交流する「大阪ホームレスクリスマスパーティー」（NPO法人ビッグイシュー基金主催）が大阪市北区中之島の大阪市中央公会堂で開かれた。ホームレスの自立を応援する雑誌「ビッグイシュー日本版」の販売者を中心としたホームレス当事者、市民、ボランティアスタッフら約190人が講演や段ボールハウスの制作などを通じて交流を楽しんだ。



8回目を迎えた今年のテーマは「ダンボールがつなぐ、路上・アート・いのち」で21日に催された。段ボールコレクターで、財布などの作品を作る島津冬樹さんが、世界20



カ国以上で採した「かっこよくて珍しい」段ボールで財布を作った経験などを披露。「見落としていたもの、目を背けていたものの良さを発見していく。どんなものにも可能性がある」と強調した。

#### 参加者が協力して作った個性的な段ボールハウス

段ボールハウス作りでは「顔の部分が開くように」「もう少し飾り付けを」などと、経験者のリードでホームレスと市民が協力して制作。風船の付いた角が特徴的なトナカイ形や実用性重視の箱形、三角屋根の煙突付近に雪が積もった雰囲気のある作品など、さまざまな個性的な「いえ」が作られた。

兵庫県三田市から家族5人で参加した岡田真二さん(39)は「ホームレスの人たちが明るくポジティブ」と喜び、ホームレスの男性(54)も「交流できて楽しかった」と笑顔。ビッグイシュー日本の共同代表を務める佐野章二・同基金理事長は「どれだけ社会が冷たくなっても、交流の温かさを発信していければ」と話した。

### 相模原殺傷5カ月 「生きた証し」残したい 実名公表へ元職員が聞き取り調査

産経新聞 2016年12月26日



「津久井やまゆり園」で趣味のオペラを披露するなどのボランティアをしていた妻・紀子さん(74)と、当時の思い出を語る太田顕さん=相模原市緑区(河野光汰撮影)(写真:産経新聞)

実名を明かし、生きた証しを示してほしい。相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人が刺殺され27人が負傷した事件で、施設の元職員らが被害者遺族や家族らへの“聞き取り調査”に向けた準備を進めている。関係者の声を丹念に拾い上げ、実名公表への道筋を立てるのが目的だ。未曾有の大量殺傷事件から26日で5カ月。被害者の大半が匿名の現状について、元職員らは「このままでは障害者への偏見が深まりかねない」と危惧している。(岩崎雅子、河野光汰)

#### ◆差別言動が拡散

聞き取り調査を計画したのは、いずれもやまゆり園の元職員、太田顕さん(73)と西角純志さん(51)。太田さんは約36年間、西角さんも約4年間勤務した。

「障害者はいなくなればいい」「障害者は不幸しかつけない」。現在は専修大学経済学部で兼任講師を務める西角さんは、7月26日の事件発生以降、元職員の植松聖(さとし)容疑者(26)＝鑑定留置中＝の言動ばかりが報道され、拡散していく状況に危機感を抱いていた。

神奈川県警は、殺害された19人の性別と年齢のみを公表。負傷者は男女別の内訳しか明らかにせず、「遺族や家族の意向を尊重した」と理由を説明した。

西角さんは「(遺族や家族の)沈黙は理解できる」とした上で、「語られないものは、存在しないことと同義。『障害者はいらない』という容疑者の思想を、間接的に肯定してしまうことになりかねない」と訴える。

#### ◆一人一人に個性

「元施設職員の自分ができることは、まだ語られていない声を拾い上げること」。西角さんは、親交があった太田さんに胸の内を打ち明けた。

太田さんも事件の風化が思ったより早く進んでいると感じ、その要因の一つに被害者の

匿名があるとみていた。

事件から1カ月以上が過ぎた9月から、まずは施設の元職員に、亡くなった19人の在りし日の姿を聞き始めた。すると、それぞれの「生きた証し」がおぼろげに見えてきた。

リーダー的な存在で、新任の施設職員に仕事を教えてくれた面倒見のいい男性。メントールクリームが好きで、手につけると跳びはねて喜んでいたりした人もいた。ある男性は電車が好きで、「ドアが閉まります」と車掌の物まねを見せてくれた。

一人一人に確かな個性があった。

#### ◆最良の形を探る

太田さんは今も施設のすぐ近くに住んでいる。今後は元職員に加え、現職員や入居者の家族へとコンタクトの範囲を広げるつもりだ。最終的には遺族に接し、それまでに関係者から聞き取った言葉や思いを届けたいと考えている。

ただ、元職員の中にも「まだ話したくない」と聞き取りを拒否する人がいた。傷がより深いはずの遺族の本音をくみ取るのは容易ではない。

事件をめぐっては、県警が今月19日、負傷した入居者24人への殺人未遂容疑で植松容疑者を追送検した。同日、24人のうち男性2人の氏名を発表。事件の被害者の名前が公になるのは初めてのことだった。

男性らの家族は産経新聞などの取材に、「息子にはちゃんと名前がある」「名前を出すことでどういう人かが見えてくる」と公表を承諾した理由を明かした。

太田さんは今回の聞き取りを計画する前、一部の遺族と手紙でやり取りをしていた。必ずしも公表を固く拒否する人ばかりではなかったという。「悩み、揺れている人もいるということ。粘り強く話し合って最良の形を探りたい。皆、生きていたのだから」

### やまゆり園の献花台、きょう撤去 相模原殺傷事件 朝日新聞 2016年12月26日

津久井やまゆり園の献花台を訪れ、花を供える人たち=26日午前8時58分、相模原市緑区、葛谷晋吾撮影

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人が殺害され、27人が重軽傷を負った事件で、園の前に設けられた献花台が26日午後4時で撤去される。事件から5カ月となるこの日も朝から花を持った人が訪れ、手を合わせていた。

近くに住む鈴木哲夫さん(70)は姉が重度の身体障害者。「なんとなく恥ずかしくて、知られたくない」と思っていたのが、事件をきっかけに変わったという。「同じ人間として、絶対許せない事件。二度と起きないように、社会や地域が考えないといけない」

事件直後に設置された献花台には、各地から多くの人々が訪れた。社会福祉の研究者やパラリンピック出場選手の姿もあった。地元住民の要望もあり、園は今後、献花スペースを別の場所に設ける予定という。

園家族会の大月和真会長は「みなさまから頂きました山の様な献花は生涯忘れません。そしてみなさまの思いを再生津久井やまゆり園に引き継いで行きます」とのコメントを出した。(照屋健)

### 【相模原殺傷事件】7・26は「やまゆりの日」 神奈川県施設連合会の追悼集会で採択

福祉新聞 2016年12月26日 編集部

神奈川県知的障害施設団体連合会(市川高弘会長、会員数370施設)は20日、今年7月26日に神奈川県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」(相模原市)で起きた殺傷事件をめぐり、横浜市内で犠牲者の追悼集会を開き、県内の施設職員など約150人が参加



した。

集会のテーマは「共生社会の実現に向けて（優生思想の克服）」。

市川会長は「事件により命を落とした人たちの無念を忘れることなく、これからの在り方を話し合っていきたい」とあいさつした。

また、福祉サービス利用者の安心・安全を考える日として、毎年7月26日を神奈川県  
の県花にちなみ「やまゆりの日」とすることを宣言し、採択された。

施設を運営する社会福祉法人かながわ共同会の米山勝彦理事長は「衝撃的な事件だったが、職員は少し落ち着いてきた」とし、同施設の入倉かおる園長は「施設の建て替えが終わるまでの仮入所先に来春引っ越す。現在、その準備に追われている」などと報告した。

来賓としては、日本知的障害者福祉協会の橘文也会長、関東地区知的障害者福祉協会の菊地達美会長が参列した。

追悼講演では、県が設置した検証委員会委員長の石渡和実・東洋英和女学院大教授が「障害者の力を信じて一緒に進んできたことが神奈川の誇りだ。優生思想を克服するカギはそこにある」と話した。

### 高齢者の避難開始明示＝「準備情報」の名称変更－ 内閣府

時事通信 2016年12月28日

内閣府は26日、災害時に市町村が発令する「避難準備情報」について、同日付で名称を「避難準備・高齢者等避難開始」に改めることを決めた。8月の台風10号による豪雨災害で高齢者が逃げ遅れたことを踏まえ、取るべき行動を明示する。対策を検討していた有識者会議が松本純防災担当相に報告書を手渡し、分かりやすい言葉で避難を呼び掛けるよう求めた。台風10号では、岩手県岩泉町の高齢者施設で入所者9人が犠牲になった。避難準備情報は、一般住民には避難準備を、高齢者や障害者に対しては避難行動を始めるよう促す合図。同町は情報を発令したが、施設側に意味が浸透していなかった。また、「避難指示」について、「避難勧告」との差が分からないとの意見があるため、「避難指示（緊急）」に表記を変更。切迫度の違いを伝える。（

### 避難情報の種類

避難情報	取るべき行動
避難指示 ↓ 避難指示(緊急)	安全な場所に 緊急に避難する
避難勧告	速やかに避難を開始する
避難準備情報 ↓ 避難準備・ 高齢者等避難 開始	気象情報などに注意し、危険を感じたら早めに避難する 高齢者や体が不自由な人は避難を開始する

(注)矢印は名称・表記の変更

### 障害者就労支援給付金1億円不正 福岡市の社福法人 手口の指南役存在か

西日本新聞 2016年12月27日

福岡市で障害者の通所型施設などを運営する複数の社会福祉法人が虚偽内容の申請書類を市に提出し、総額1億円以上の障害者福祉施策に関する給付金を不正に受け取っていた疑いがあることが26日、関係者への取材で分かった。問題の施設は市内に10カ所近くあるとみられ、このうち1カ所の施設関係者が、不正受給の手口の「指南役」となっていた可能性も指摘されている。給付手続きの窓口である市が調査に乗り出しており、近く福岡県警に詐欺容疑などで刑事告発する方針。この給付金は、障害者に対し就労支援などさまざまなサービスを提供した施設に国、県、市の3者が市を窓口にして交付する仕組み。

関係者によると、不正受給の疑いが持たれている複数の社会福祉法人は、それぞれが運営する通所型施設の職員数を実態より多く見せかけるなどした虚偽内容の書類を作成し、市に給付を申請。「指南役」が書類の作成などを教えていたとみられる。中には複数年にわたり不正受給を繰り返していた悪質なケースもあるという。市は書類の精査や施設関係者



への聞き取りなどを進めており、27日にも調査結果を公表する見通し。県警への刑事告発とともに、行政処分も検討しているとみられる。

**西洋料理シェフ、あすなろの里でプロの味を振る舞う** 佐賀新聞 2016年12月26日  
施設で栽培した野菜を使った料理を仕上げる司厨士協会の会員＝有田町のあすなろの里



県内の西洋料理シェフが21日、有田町の障害者支援施設「あすなろの里」（岩永浩一施設長）で昼食を振る舞った。クリスマスソングが流れる中、食卓を囲んだ施設利用者ら150人が彩りよく仕上げられたプロの味を楽しんだ。

全日本司厨士協会佐賀県本部（川原純一会長）が、若手育成や社会貢献の場として行っており、今回で10回目。施設のクリスマスに合わせて、レストランなどで働く12人がボランティアで協力した。

この日のメニューはシシリアンライスやジャガイモのポタージュなど5品。川原会長らが朝早くから調理を続けた。いずれも施設で栽培した採れたての野菜をふんだんに使っている。

川原会長は「おいしく食べてもらえる姿を見ることは、料理人にとって最高の喜び」と、利用者からの「おいしい」の声に目を細めていた。

**ダウン症の娘、光くれた** 渡辺純子

朝日新聞 2016年12月26日



是松いづみさん

四つ葉のクローバーのようなもの。娘の障害をそう例えて講演を続ける女性がいる。染色体が1本多いダウン症。でも、そのおかげで気づいたことがある。命の尊さ、自身に潜んでいた差別の心、そして、人の優しさに。



教壇で赤ちゃんの写真を掲げ、児童約90人にほほえみかけた。「かわいいでしょう。もう22歳になってるの。梓（あずさ）といいます」

11月上旬、福岡市早良区の百道浜（ももちがま）小学校。今春までこの学校の教諭だった是松いづみさん（60）。梓さんは次女だ。

「ダウン症ってね、染色体が1本多いの。四つ葉のクローバーがあるでしょ、あんな感じ。どの国にもどの時代にも、800人に1人くらいいます」

梓さんが生まれた時のこと、家族や友だちとの温かなやりとり。クイズを交えながら楽しそうに、時にしんみり語った。90分間の授業のあと、ある女子は「私に障害のある子どもが生まれても、とてもうれしく受けとめることができますと思います。今日の授業は一生忘れません」と書いた。

梓さんを産んだのは1994年9月。喜んだのもつかの間、すぐ梓さんだけ救急車で、総合病院に搬送された。数日後、夫からダウン症だと告げられた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

